



とび 鳶

住

建設現場で足場を組み、建物の基礎になる柱を建てる。
「鳶がいなければ工事が始まらない」とも言われる。



ここに技あり!!

現場の中でも、高所を専門に作業を行う鳶職の無駄のない一つ一つの動作は、日々の鍛錬による賜物です。新春恒例の出初

式(でぞめしき)では、梯子乗りや木遣り(ぎやり)・まとい振込みなどの華麗で迫力ある鳶の伝統の技を披露し、観客を魅了します。

建設現場で高所作業を中心とした仕事を行うのが鳶職です。業務範囲は多岐にわたり、専門分野によって分類されています。「町鳶」は、基礎工事、足場工事、棟上工事から伝統工法の上屋(うわや)工事(仮設屋根の設置工事)、曳家(ひきや)工事(家屋の移動工事)まで行います。古くから行われてきた梯子(はしご)乗りなどの伝統技術も受け継いでいます。

ほかに、建設現場で足場を組む「足場鳶」、鉄筋構造の建物の骨組みを担う「鉄骨鳶」、建築物の内部に機械などの重量物を据え付ける「重量鳶」などがあります。見習いからスタートし、一人前、親方と経験を積んでいくのが一般的です。個人差はありますが、一人前と認められるには、おおよそ10年程度の修行が必要とされています。

仕事の魅力

上下関係の厳しい世界に思われがちですが、危険が伴う仕事のため、作業中は厳しく、休憩中は和気あいあいと、チームワークを大切にしています。上手く作れて当たり前の現場で、毎日懸命に仕事をしています。

●学ぶ

建設会社や鳶職人のもとで、見習いとして技術を学ぶ。ただし、18才未満は高所作業が禁止されている。

●磨く

技能検定:とび技能士1~3級
足場作業主任者、玉掛作業者

●活かす

建設会社や鳶職人のもとで、一般住宅から高層ビル、橋梁まで、専門分野に分かれた現場の親方を目指したり、出初式で梯子乗りなどの伝統芸も披露できる。